

保育士の専門性と社会的評価

貫洞 伊織 (勝俣ゼミ)

HS21-1008K

論文の目次

はじめに

第1章 先行研究と課題

1-1 保育士から見た保育の専門性

1-2 社会とのギャップ

1-3 課題の整理

第2章 インタビュー調査の概要

第3章 インタビュー調査の分析

3-1 保育士が感じている専門性

3-2 現場の保育士が感じる行政や自治体との
ギャップ

3-3 保育士が求めたいこと

第4章 結論

参考文献

論文の要旨

はじめに

近年、保育士の賃金制度や待遇に関するさまざまな問題が注目されている。

垣内によると、保育者が専門性を維持し向上させられる労働条件を与える必要があるとされているとされており、保育士が専門性を発揮できる環境が整備されていない現状がうかがえる(垣内 2006)。

本研究では、保育士の専門性が現場においてどのように認識され、評価されているのかを明らかにするとともに、社会や行政との間に存在する専門性に対する認識のギャップについても

考察している。インタビューを通じて、保育士の専門性の実態とその評価の現状を分析し、認識のズレを解消するために必要な施策や改善策についても考察していくことを目指す。

1 先行研究

保育士の専門性とはどのようなものなのか。

例えば清水は、保育の専門性を考えるとき、これを客観的に計る基準がどこを探しても見当たらない点に、最大の難しさがあると指摘している(清水 2007)。

保育士の専門性とは、広範で多様な業務内容と、経験や柔軟性に支えられた複雑な概念である。それゆえに、専門性を一義的に捉えることは難しく、また統一的な評価基準を設けることも困難である。

2 調査方法

本研究では、私立保育園である X 保育園と Y 保育園において、キャリアの異なる 5 名の保育士に対し、2024 年 10 月から 11 月にかけて、一人当たり所要時間約 30 分から 60 分程度の単独インタビュー調査を実施した。また、2023 年 12 月に筆者も参加した公立保育園でのグループ調査(所要時間約 1 時間 30 分程度)のインタビューデータも補助的に参考にしている。

3 現場の保育士が感じる専門性

インタビューの結果、保育士自身が考える専門性とは多面的であり、現場での経験と理論的な学びが相互に作用させながら子どもの発達や

ニーズに対応する能力として高められていることが分かった。

保育士はその専門性を持ち続け、実践の中で日々成長することが求められるが、その努力が社会的に十分に認識されていない現実がある。専門性の不明瞭さが保育士の役割の重要性を伝える妨げとなり、評価が得にくい現状が続いている。

4 行政や自治体とのギャップ

現場の保育士は、日々の業務を通じて「命を預かる」という重大な責任を担っているが、その専門性に対する行政や自治体の認識にギャップがあるため、その重要性が対応に十分反映されていない現状が浮き彫りになった。

特に、危機管理の分野では、自治体側の対応と現場で求められる迅速な対応とのズレが、専門性の認識不足に起因しており、このズレが現場の負担を増やす要因となっている。

5 保育士が求めたいこと

保育士たちが求めているのは、専門性に対する正当な評価を受けることだけでなく、柔軟で迅速な行政の対応や、待遇改善による労働環境の向上といった側面も含まれていた。

また、行政や自治体が提供する研修は、保育士にとって非常に有意義であるが、それが現場でどのように活かされているのかを把握しきれないという課題が浮かび上がった。

研修の内容そのものを維持しつつ、それが現場で実際にどのように活かされているのかを確認する仕組みの強化や、保育士たちの専門性を社会的に認める体制の構築が必要であると考えられる。

6 結論

本研究は、保育士の専門性が行政と現場の間でどのように認識されているのかという点に着目し、その認識のギャップを解消するための必要性を明らかにした。そのためには、現場の保

育士が日々の実践を通じて発揮する専門性を正當に評価し、それを行政の政策や制度に反映させるための仕組みを構築することが不可欠である。

こうした取り組みによって、保育士がより自信を持って専門性を発揮できるだけでなく、保育の質そのものを向上させることが期待される。

さらに、研修の成果を評価し、それを現場で活用する仕組みを整備することで、保育士の専門性が最大限に引き出され、子どもたちにとってより良い保育環境を提供する基盤を築くことが可能となるだろう。

主要参考文献

- 垣内国光編著, 2011, 『保育に生きる人々』 ひとなる書房.
- 垣内国光・東社協保育士会編著, 2007, 『保育者の現在』 ミネルヴァ書房.
- 垣内国光・義基祐正・川村雅則・小尾晴美・奥山優佳編著, 2015, 『日本の保育労働者』 ひとなる書房.
- 近藤幹生, 2018, 『保育の自由』 岩波新書.
- 日本保育学会編, 2016, 『保育者を生きる』 東京大学出版会.
- 埼玉保育問題協議会編, 2009, 『保育者がたいせつにされてこそー埼玉保育者実態調査結果報告書』